

モーツァルト室内管弦楽団 第173回定期演奏会

〈クリスマス合唱名曲集〉

モーツァルト◆《戴冠ミサ曲》ハ長調 K.317

ピンカム◆クリスマス・カンタータ

カルケ◆《天上より》

ラター◆クリスマス・キャロル名曲集

田中希美(ソプラノ) 高原いつか(アルト) 西垣俊朗(テノール) 萩原寛明(バス)

合唱:モーツァルト記念合唱団

指揮:益子 務

*1:50pmよりプレトーク有 (門 良一・益子 務)



2016.

12/17(土)いずみホール

JR環状線「大阪城公園」駅から徒歩3分、「京橋」駅から徒歩7分、
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から徒歩5分。
有料駐車場完備

2:00pm開演(1:30pm開場) 入場料:一般 ¥5,000(指定席) / 学生 ¥1,000(当日限定数発売) *小学生よりご入場いただけます。

主催◆モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org> 協賛◆いずみホール[一般財団法人 住友生命福祉文化財団]

マネジメント◆大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504 e-mail:artists@gol.com

〒530-0041大阪市北区天神橋3-3-3南森町イシカワビル507 URL:<http://www.oaa1985.com/>

前売

大阪アーティスト協会 050-5510-9645(電話受付:平日10~18時) いずみホール 06-6944-1188 テレックびあ 0570-02-9999(Pコード:*****)

ローソンチケット 0570-084-005(Lコード****)

*大阪アーティスト協会は世界の子どもの未来を支える大阪ユニセフ協会に賛同し、コンサート会場で募金活動等を行いながら、音楽を通して少しでも社会に貢献できるような取り組みを続けています。皆様のあたたかいご支援ご協力をお願い申し上げます。



益子 務 *Tsutomu Masuko*

京都大学教育学部卒業後、同大学院在学中にロジェ・ワグナー合唱団と契約し渡米。1968年からシカゴ・リリック・オペラなどのソリスト。シンシナティ大学大学院声楽科を経てインディアナ州立ボール大学で修士号取得、同博士課程修了。1977年より武庫川女子大学音楽学部教授(声楽・音楽療法)。ドレスデン国立歌劇場、ワイマール音楽大学、ノヴォシビルスク国立グリンカ音楽大学などで客員教授。指揮者としてはモーツァルト室内管弦楽団・モーツァルト記念合唱団、カメラータ・フィルハーモニカ・ボヘミア(チェコ)などを指揮。毎夏ブラハで室内楽の教授、指揮を行う。2008年から毎年チェコ、ベルギー、ドイツで指揮し、2014年夏には、「雪の聖マリア教会」(プラハ)、世界文化遺産の聖バルボラ教会(クトゥナ・ホラ市)でモーツァルト作曲のハ短調「大ミサ」、「レクイエム」などの指揮。2014年には「テレジン・ユダヤ人収容所開放70周年」のコンサートで犠牲者の詩による作品の初演をテレジンおよびプラハで演奏。2015年9月にはEU文化首都芸術祭から招かれ、ベルギー、モンスにおいて世界文化遺産の聖エリザベート教会およびアフリゲム修道院でも演奏し、大成功を収める。2016年12月にはベルギー、ゲント市のパーフス大聖堂のクリスマス・ミサでモーツァルト「戴冠ミサ」などを指揮する予定。また、音楽療法の教育・実践において精力的な活動を行い、2002、2010年の日本音楽療法学会全国学術大会長を務める他、2010年には「東ヨーロッパ芸術療法学会」の基調講演を行うなど、ドイツ、チェコ、ベルギーの大学でも音楽療法分野で活躍している。

モーツァルト室内管弦楽団 *Mozart-Kammerorchester Japan*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、45年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キューヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を開催。また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を、15年からは〈創立45周年シリーズ〉を開始している。

モーツァルト記念合唱団 *Mozart Choral Ensemble*

1991年にモーツァルト室内管弦楽団の要請を受け特別編成された合唱団。女声は若手プロを中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、パートリーダーに参加を要請、1991年7月に益子務氏の指揮のもと発足、同年12月モーツァルト没後200年を記念してモーツァルト室内管弦楽団第48回定期演奏会でモーツァルトの「レクイエム」を協演後、毎年協演を重ねる。93年初の単独自主公演でジャニーヌ・ワグナー氏を客演指揮者に迎え、「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催。98、2000年ベルギー・フランドル政府の招きで文化交流使節として2度にわたりベルギー演奏旅行を行い、ブリュッセルのサン・ミッシェル大聖堂での演奏、FM-3での放送などで大成功を収めた。2000年設立10周年記念にCD「ロッシェニ小荘厳ミサ」をリリース。2010年には神戸で行われた日本音楽療法学会での大会長公演、2011年モーツァルト室内管弦楽団との合唱団創立20周年記念コンサートに引き続き、2012年には合唱団の自主公演として20年の歩みを記念したコンサートをいずみホールで開催。今年25周年を迎えるにあたり、「日本—ベルギー国交樹立150年記念」コンサートを開催後、「ベルギー—日本国交樹立150周年行事」としてベルギー、アールステ市(聖マルティヌス教会)、ゲント市(聖パーフス大聖堂)にてクリスマス大ミサを演奏旅行。



指揮
益子 務



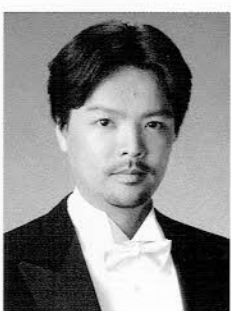
ソプラノ
田中 希美



アルト
高原 いつか



テノール
西垣 俊朗



バス
萩原 寛明